



巻頭言

今、化学者に求められること

●
松永 是 Tadashi MATSUNAGA

国立大学法人 東京農工大学 学長



イギリスのロバート・リンドという随筆家が、『怠け者の怠けた考え』の中で次のようなことを言っています。「この世でなにが楽しいと言って、やらなければならない仕事が山ほどあるのに、それをぐずぐず伸ばして、もう少し暖炉にあたっていたい、音楽を聞いていたい、と思うあの瞬間ほど楽しいものはない」。勤勉と言われた我々日本人でも皆多少なりとも思い当たる状況ではないでしょうか。かく言う私も、原稿を前にして、ついつい別の本を読んではしまったということが一度や二度ではありませんでした。しかし今、少なくとも化学者としては、我々はそんな楽しみに耽っているわけにはいかないのです。

現代社会は科学技術の進歩とともに、環境、エネルギー、食糧、健康、安全・安心、災害等の問題をはじめ人類の存続にかかわる地球規模の危機的問題を多く抱えるようになりました。その上、昨年の震災と原発事故以降高まる脱原発を望む声を受け、その代替となる、環境に配慮したクリーンなエネルギーの安定的な供給が急務となってきています。こうした諸問題の解決は、科学技術によって可能となるものです。ことに化学の重要性は、今後ますます高くなっていくことが予想されます。資源も少なく国土も広くはない日本の国力の向上のためにも、研究の推進はもちろん、人材の育成に大局的見地から取り組むことが重要です。平成24年度予算でも、高等教育や科学技術関係では、国の将来を決める復興、グローバル人材の育成、グリーン及びライフイノベーションにはしっかりとした予算措置がなされています。これは我が国の逼迫した状況の打開における科学に対する期待の表れにほかなりません。化学者はその研究を通じて、日本を含む国際社会の「安全・安心・快適」を作っていくことに専念しなければならないのです。同時に大学という高等教育機関に身を置く者としては、化学の進歩を牽引する人材を一人でも多く世に送り出すため、教育の質の保証と個性・特色の明確化、大学間連携の推進、大学運営の高度化といった大学改革を積極的に進めていくことも、「ぐずぐずと伸ばす」ことのできない責務であると痛切に感じています。

新しい時代を作るには、意欲的に課題に取り組むだけでなく、刻々と変化する状況を常に先見し主体的に行動することが大切です。現在化学者の置かれている状況は非常に厳しく、やらなければならない仕事は山積しています。しかし眼前にある課題にのみ囚われるのではなく、その研究の結果が生み出す先の先を見据え、無駄や失敗を恐れず、常に先手を打って次の研究へ進まねばなりません。『仕事を追え。仕事に追われるな』というベンジャミン・フランクリンの言葉どおり、持続発展可能な社会を構築するため、より良い未来を創るイノベーション創成をこれまで以上に積極的に追い求めていく時が来ています。

© 2012 The Chemical Society of Japan